

ZENBUTSU

全仏



No.
522

仏暦2549年10月
[2006年]



(ミャンマー ピンダヤ石窟寺院 撮影 田村 仁氏)

CONTENTS

報告 ————— 教化セミナー「いま子どもたちがあぶないPART2」開催される

宗教系社団・財団に対する対応(一)

「あなたのパソコンは大丈夫？」 其之三

第一回国際交流審議会・総務財政審議会報告

財団創立五十周年記念事業実行委員会 第一回総務部会報告

日本宗教連盟 創立六十周年記念式典

教化セミナー

いま子どもたちがあぶないPART2

—いのちの教育実践と現場から社会へ— 開催される!

八月二十二日(火)、真言宗智山派総

本山智積院別院真福寺地下講堂にて

「いま、子どもたちがあぶないPART 2」いのちの教育実践と現場から社会へ」

〔主催〕(財)全日本仏教会 共催

〔社〕日本仏教保育協会・(財)全国青少年教化協議会」が、メインパネリスト

に金森俊朗氏(金沢市立西南部小学校

教諭)、パネリストに古川伸子氏(宝

仙学園幼稚園園長)・和田重良氏

(NPO法人くだけかけ会代表)、コ

ディネーターに神仁氏(全国青少年教

化協議会主幹)を招いて開催された。

当日は七十名を超える参加者が、子ども達の今を共に考えた。

金森俊朗氏講演

キヤッチャーとなれ

金森氏は、命の教育について、会場の入口近くの木の下で見つけたセミの抜け殻を示しながら、「事実を子どもが発見した時の驚きと嘯み合う教育がない」と指摘し、「子どもたちの心の揺れ、不思議がる好奇心・感性を何処までわれわれがキヤッチできるかが一

番大事である」と提言した。

そのためには大人はピッチャーではなくキヤッチャーになるべきであると氏は語る。

「最後まで聞かない大人ばかりである。最後まで聞いてくれるキヤッチャーとなるべきだ」「生き様、生きるしぐさで子どもたち(ピッチャー)にサインを出し、投げってきたボールが例えサインとは全く違う、とんでもない球であろうと大人(キヤッチャー)は身を挺してでもその球を受け止める、身体でとめる気合が必要だ」と述べられた。

命の鼓動に耳を澄ます

「子ども時代、子ども心には祖母に無理やり仏壇の前に毎朝座らされて苦痛に感じていた。四十過ぎになり、これは祖母からの何よりの贈り物であったかなあと思っている。そこに座し、じつと自分のいのちを感じる事が出来る、そんな場所が今ないのである」子どもたちの声を聞いて、命の鼓動に耳を傾ける必要がある。子どもたちはわれわれが考えている以上に、自分について悩みを抱き、考えている。そ

のことを無視して子どもを理解することはできない。子どもと共に歩むということは、子どもたちがどのような悩みを抱き、どのような悲しみをもち、何処まで追い詰められているかを受け止めていくことである。

「自分の悲しみを解ってもらえる人を持つことが何よりである」

土のある教育

子どもにとって遊びは何事にも変えがたい学びの場であり時間である。

泥んこまみれになりながら、生物と草花と接し、疑問を持ち、仲間と共にボデイコミュニケーションを育み、時には自分の限界を知ることができる。

「自分を見詰めた時、土によって生かされている存在である、という言葉を子どもが言った。そこまでのいのちを見詰めることができる存在、それが子どもたちである。自分の力で、自分の言葉でキヤッチボールができる存在である」子どもは言葉の力を持っている。氏の講演は子どもたちの生の声を紹介しながら進められた。それだけに、氏の言葉に強い説得力が感じられた。

パネルディスカッション

引き続き行われたパネルディスカッションでは、古川伸子氏は、「自然が壊されている。そこに今一度

思いをいたす必要がある。食べ物の危険性。殺虫剤が使われ続けてきた汚染の危険性。大人も子どもも身体のバランスが壊されてきている。それと同時に心のバランスも壊されてきている。今の子どものためには遊ぶ場所がない。寺院の役割として、子どもたちへ場所の提供が出来るのではないか」と述べられ、また和田重良氏は

「生死を別々にとらえるのは科学的視点。生死は分けることができない。生死を丸ごととらえると深い安心が得られるのではないか」と述べられ、子どもたちの今置かれている立場の危険性を指摘された。

われわれの無関心さが、他人事的姿勢が子どもたちを危険にさらしている。親は学校の、学校は親の責任にし、「わたし」は親も学校も悪いと高みの見物を決め込んでいる。自分の責任として考えていない。他人事である。テレビ・新聞等々で「大変だ、大変だ」と騒いでいるが、いざ、こうした講演会や、考える会などを催しても参加者の数は少ない。こちらの呼びかけ方にも問題はあるのかもしれない。しかし、参加する、しないは別にして、誰かがやるだろう的な発想が根っこにあることは間違いない。今、「わたし」が如何にするかが問われている。(江口)

セミナー参加者から感想文をご寄稿いただきましたのでご紹介させていただきます。

川崎大師平間寺 教化部教務課

盛岡 隆紀

教化セミナー

いま子どもたちがあぶないPART2

に参加して

川崎大師では、毎週日曜日午前十時から正午まで、小学校一年生から中学三年生までを対象に「日曜教苑」を開催しています。

毎週大勢の子どもたちと接することで、接し方や話し方が自然と身につけてきます。しかし、身につけたものが何なのかを確認することは難しいものです。

今回のセミナーでは、実際の教育現場にいらっしゃる先生方から大変貴重なお話を伺い、自分たちに欠けている部分や直さなければならぬ部分などを確認できたように思います。

メインパネラーの金森俊朗先生の講演中にあった「子どもはピッチャー、大人はキャッチャーであれ」とのお話

は実に参考になりました。ただひたすら聞くことの大切さ、目線を合わせることの重要性にあらためて気づかされました。自身や他の指導者たちを省みますと、ついつい「こうあるべき」を優先して頭ごなしに指導をしたり、子どもの言葉に耳を傾けなかったりすることが多いように思います。最終的な答えは一緒でも、押しつけられた答えが心地良いものでないのは自分自身でもわかってはいるのですが。

パネルディスカッションでは今の子どもたちがどういう「あぶない」にさらされているかを伺いました。

生活環境などはもちろんですが、何より考える時間、遊ぶ時間、悩み、迷う時間など成長していくために必要な時間がないことの問題は切実かと感じました。

今回のセミナーに参加し、学校では経験できない寺院での活動の意義というものを考えさせられるとともに、子どもの目線を忘れずに指導を行う大切さを改めて感じる事が出来ました。

東京都中野区

金の峰幼稚園教頭

久末 喜代美

八月二十二日(火) 午後一時三十分

より、真言宗智山派総本山智積院別院真福寺にて、全日本仏教教化セミナー『いま子どもたちがあぶないPART2』のこの教育実践と現場から社会へ』をテーマに研修会が開催されました。暑い日でしたが会場は冷房され快適な中でセミナーを受講することができました。

第一講 講演 金森 俊朗先生

「子どもは時代の影響を受けて育っているが、教科書がないと教育出来ない、子どもが発見した驚きに見合う教育が出来ないのが現状である。先生がいますることは、子どもの気持ちをしっかりと受け止められるキャッチャーになり、子どもからのサインを見逃さないことが大事ではないか？」

子どもはピッチャー、先生はキャッチャーという関係を大切にし、子どもの話を最後まで聞き、投げられたボールのメッセージは返してあげ、子どもの気持ちにこたえて上げられる、先生でなくてはならない。日々生きていくことがピッチャーからのサインだから、見逃さずキャッチすることの難しさを感じました。

子どもは子どもらしく生きられない、子どもを子どもらしく育てられない大人がいる時代に、自然に触れる感動や、仲間を作ってみるとふれ合う楽しさ

を体験させ、ピッチャーの投げたボールをキャッチできる先生との関わりの中で、子どもと一緒に共感できる時を過ごすことが大切であると思いました。最後に金森先生は「子どもはいろいろな体験をし、実践したことを相手に認められ生きていく。だから、教育・子育ては楽しくやろうよ」との言葉に感動しました。

第二講 ディスカッション

命とは何かをテーマにディスカッションが行われ、各分野の先生方からご提案があり、生きること、命について改めて考える機会をいただきました。二時間はあっという間に過ぎ明日へつながるお話が伺えたことに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



パネルディスカッション

宗教系社団・財団に対する対応（一）

顧問弁護士 長谷川正浩

公益法人制度改革関連三法案（以下まとめて「新法」といいます。）が去る平成十八年五月二十六日に成立し、同年六月二日に公布されました。宗教系の社団・財団法人はこれによってどのような影響を受け、どのようなことを検討しておく必要があるのでしょうか。二回に渡って私の考えを述べてみます。

【検討課題】

宗教系の社団・財団はいずれも宗教法人の支援を受けていますが、潤沢な資産があるというわけではありませんから、非課税と同じ結果になる上記③公益認定法人を選択したいところですが、しかしこれにはいくつかの条件を具備しなければならない。この条件が具備できないとなれば④非営利法人を選択しなければなりません。しかし④非営利法人では、法人税が課されますから、今後の運営が不可能となる場合があります。そうなれば意識的に⑤解散法人への道を選択せざるを得ないことになります。

【新法の概要】

平成二十年度に新法が施行されますと、従来の民法法人（社団・財団）は特例民法法人（特例社団法人、特例財団法人）と呼ばれるようになります。施行から五年を経過するまでの間に次の三ついずれかの形態を選択することとなります。

- ① 非営利法人に移行認可される
- ② ①のうち、一定の基準（公益性）を認定された法人のみ、公益認定法人に認定される
- ③ ①②いずれにもならない場合、自動的に解散法人となる

③公益認定法人に認定されれば、免税となつて非課税とされ、現行税制と同じ結果となりますが、④非営利法人

の認可のみですと原則課税となります。

【公益認定法人となる条件】

1. 公益法人に認定されて免税となるには、第一に公益事業を行わなくてはなりません。公益的事業とは「不特定かつ多数の者の利益増進に寄与することを目的とする事業」です。公益認定法第二条四項では、この公益目的事業を二十三

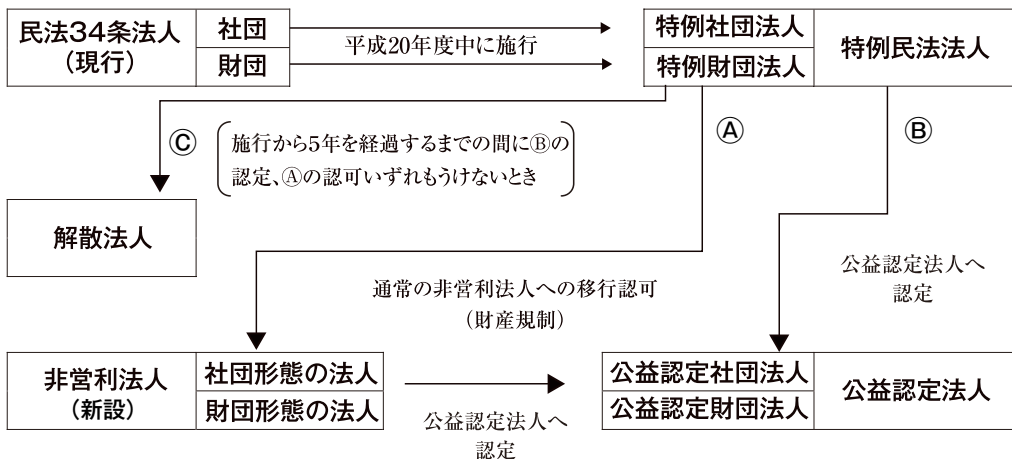
種類挙げています。宗教系社団・財団に関係すると思われるものを挙げてみますと、①学術・科学技術・文化・芸術の振興②障害者等弱者の支援③高齢者の福祉④公衆衛生⑤児童・青少年の健全な育成⑥勤労者の福祉・向上⑦心身の健全な発達と人間性の涵養（かんよう）⑧差別等の根絶⑨思想・良心・宗教・表現の各自尊重・擁護⑩男女共同参画社会の形成等々です。これらを目的とする事業が定款や寄附行為の目的とされているなければなりません。

2.

第二は、公益目的事業を担保する制度を具備していなければならない。例えば同一親族等が理事・幹事の一定割合を占めないことや、公益的事業量が全事業量及び管理費の合計額の半分以上を占めること等です。（この点については次回で説明します）上記一、二の点について定款や寄附行為を点検して不足があれば今のうちに改正しておくことが望まれます。

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。



「あなたのパソコン大丈夫？」 其之三

パソコンからの、情報漏えいに関する対策や意識改革の啓発を目標とした本コーナーも第三回を迎えました。今回は、最近のニュース等から、近年特に注意が必要である事例についてお伝えします。

銀行ATMが隠しカメラによって盗撮され、暗証番号が漏えいする、というニュースが一時多く流れました。なぜこの手段が流行し、かつ有効であったのか、を考えてみる必要があります。例えば、銀行カードを四枚ほど持っていたとします。一枚の暗証番号を盗撮されたとしても、他のカードの暗証番号が違うならば、被害は最小限で済みます。

しかし、実際の所、銀行カードだろうがクレジットカードだろうが、暗証番号が全部一緒、という人は珍しくありません。更に問題なのはそのような人ほど、その暗証番号を二年以上の長期に渡って変えないケースが多い事です。昨今のように、犯罪者が積極的に個人の暗証番号を狙っている状況では、このように長期に渡って暗証番号を変更しないことは自殺行為である、と言っても過言ではありません。

銀行のATMに隠しカメラを仕掛け

という方法を、パソコン+インターネットで実現した、と言えるのがフィッシング詐欺等の方法に代表される、たとえて言うならばインターネット上の盗撮です。暗証番号や、パソコンに関する暗証番号(パスワード)を盗んで、財産や個人情報を狙う方法です。手口は次々巧妙化しており、困った限りですが、ここでも先の銀行カードと同じ理由で、無用の被害が拡大している傾向があります。つまり、暗証番号やパスワードが全部のパソコンで共通、かつ長期に渡って変更がされていないのです。

「そういえば何年も変更していないな」と思い当たった方、至急の変更をおすすめします。

また、パソコンや周辺機器が小型化していることで、紛失の危険が増大しています。最も色々な意味で危険なのが携帯電話です。携帯電話にパソコンに入っているのと同規模のデータを入れている人も見受けられますが、パソコンをいくらガードしても携帯電話を無くしてしまえば同じことだと言うことを忘れてはいけません。クレジットカード等までも一部の機種では搭載され、

直接の金銭的な被害まで発生する状況も生まれています。

「紛失するかもしれない」

という可能性を考え、携帯しなくとも良いデータは携帯せず、やむを得ない場合は紛失に備えパスワード等を設定しておくのが現実的な対策でしょう。パソコン関係に限ったことではなく、セキュリティ対策全般に言えることですが、情報漏えいの一の原因は対策にお金をかけていない事でも使用者の技術力不足でもありません。パソコンを使用している、もしくは管理している人間が情報漏えいの対策や管理に対してあまりにも無関心な場合や、少しの間を惜しんだ事に起因する場合があります。

「ウイルス対策ソフトを導入する」

という方法を先号紹介しましたが、ウイルス対策ソフトでも、全ての流出の危険を防げるものでは到底ありません。ウイルス対策ソフトを入れたからといって安心しきってしまったから転倒で、実際ウイルス対策ソフトが入ったノートパソコンを丸ごと飲み屋に置き忘れてしまったりするわけです。

近年の事件や対策等、紹介したい事例はいくらでもあります、限られた誌面で常時紹介し続けていくのはなかなか困難であるのと、説明を詳しくすると、インターネットのアドレス表示が必要な関係から、本コーナーは全仏

ホームページ(本誌最終頁左下にアドレス掲載)に今後は移動して、継続的な漏えい対策の啓発を行ってゆけたら、と考えております。

平成十七年六月三日に本会が、「個人情報保護に関する研修会」を開催し、長谷川正浩・本会顧問弁護士他が講演、その講演録を頒布しています。宗教学人における個人情報保護、というジャンルに関する現状唯一の本ではないかと思えます。(A五版、一三二頁・八〇〇円 送料別)

特に、Q&Aコーナー等は、Q「歴史(郷土史)の研究者が故人(江戸時代)の法号(戒名)を知りたいと申し出た場合、寺の過去帳を開示してよいか?」

等々、宗教学人に即した質疑応答が大変参考になります。答えは冊子を開いてのお楽しみで。冊子に関するお問い合わせ、本コーナーに関してのご意見、ご感想は、
kouho@jfb.ne.jp

までどうぞ。本コーナーが、継続的に情報漏えい対策に関心を寄せていただき、少しでも寺院をはじめとした宗教学人の情報漏えい対策が前進するきっかけとなるならば、これに勝る喜びはございません。

(広報文化部 西野 良嘉)

日蓮宗が千鳥ヶ淵において 追善法要を厳修

終戦記念日の八月十五日、日蓮宗では、「千鳥ヶ淵戦没者追善並びに世界立正平和祈願法要」を厳修した。昭和三十四年に同墓苑創設以来、四十七回目の法要となる。



小松浄慎宗務総長導師と式衆

当日は、約四百五十名が参列し、午前九時より小雨が降りしきる中、日蓮宗青年会僧侶の唱題行脚を先頭に導師の小松浄慎宗務総長、副導師の東京四管区の草ヶ谷秀人、太田順道、石井隆康、佐野詮学各所長、修法導師の村上慈昌東京北部修法師会長、式衆の声明師、修法師らが入堂した。小松宗務総長は、表白文で「我等一同、異体同心にして立正安国実現の歩みを誓願し、衷心より諸霊成仏の祈りを捧ぐ」と共に世界平和を祈願された。

法要終了後、有志の青年僧や檀信徒約五十人が慰霊平和祈念行脚を池上本門寺まで行った。

第一回国際交流審議会報告

八月二十一日午後二時より、本会会議室で、第一回国際交流審議会が開催された。

はじめに安原晃理事長より委員へ委嘱状の伝達、続いて委員互選により委員長に松濤弘道師（学識経験者）、副委員長に一島正真師（天台宗）を選出した。

続いて安原理事長より、本会の今後の国際交流事業の指針について諮問が行われ、年度内に答申することになった。またWFB（世界仏教徒連盟）副会長に本会から松濤弘道委員長が、WFB執行委員に戸松義晴委員が理事会での承認の下、出向していることが報告された。

続いて①本会としてのルンビニ園復興事業の終結の件、②旧朝鮮半島出身の民間徴用者等の遺骨返還問題の件、③明後年六月十八日にブラジルで開催される日本人ブラジル移住百周年記念開拓先亡者慰霊法要の件、④ブツダガヤ大塔管理委員会からの要請の件、⑤本年四月に開催された第二十三回WFB台湾大会の件がそれぞれ報告・協議された。

そして明後年開催予定の第二十四回WFB日本大会開催に向けて、加盟各宗派・団体の海外部局、開教経験者、青年会組織、関係学校等へ、今後一層の協力を要請することが了承された。

第一回総務財政審議会報告

去る九月六日（水）午後二時より本会会議室において開催、理事長より委員へ委嘱状が伝達され、委員長・副委員長が選出された。

総務財政審議会委員長
松山英照師（臨済宗妙心寺派）
同副委員長

近藤真道師（愛知県仏教会）
引き続き、同審議会に対して左記の諮問がなされた。

諮問事項

- 一、負担金について
- 二、賛助会員について

本審議会では、この機に過去十年間据え置かれてきた負担金の見直しと、新たな財源として、賛助会員制度が寄附行為第三十七条に位置付けられたことと併せて、将来を展望した財政の安定のために具体策を検討していくこととなった。



総務財政審議会

財団創立五十周年記念事業実行委員会 第一回 総務部会報告

八月二十五日午後二時より、明照会館四階第一会議室において、第一回総務部会（部会長 齋藤明聖師）が開催された。財団創立五十周年記念事業実行委員会（以下実行委員会）は委員総数約百三十名に及ぶ組織であり、全体での会議を頻繁に開催し、事業の詳細を協議することは困難である。したがって、総務部会が実質的に実行委員会の役割を果たすこととなる。会議では具体的には以下の役割を担うことが確認された。①五十周年記念事業の推進にかかる事項②五部会（勸募・式典・神奈川大会・WFB大会・記念誌編纂）の連絡調整に関する事項③その他必要な事項。その後、各部会の進捗状況について、事務局においてそれぞれの部会を担当する部長から報告がなされ、出席の部会長から補足説明があった。

さらに、統一テーマ「地域の縁、アジアの縁」にもとづき、各記念行事の関連・流れの確認と、来年八月に予定される財団創立五十周年記念式典での功労者表彰について検討が行われた。また、事業全般についても、委員による活発な意見交換がなされた。

事務総局録事

八月(十一〜三十一日)

十五日▼日蓮宗主催

「第四十七回千鳥ヶ淵戦没者
追善供養並びに世界立正平和
祈願法要」参列

十八日▼日本ネパール国交樹立五十周年
年記念協力会熊谷氏と打合せ

二十一日▼国際交流審議会

二十二日▼教化セミナー「いま、子ども
たちがあぶないPART
2」開催

▼日本宗教連盟幹事会出席

二十三日▼部落解放・人権夏期講座参
加(至二十五日)

二十四日▼無料法律相談室

二十五日▼総務部会
▼局内会議

二十六日▼WCRP日本大会参加

三十日▼部落解放・人権政策確立要求
中央実行委員会 第一回全国
代表者会議出席

九月(一〜十日)

一日▼関東大震災並びに都内戦災遭難
者秋季慰霊大法要参列

▼WFBパロップ事務総長来局

▼電通来局

二日▼日本ネパール協会「日本ネパール
国交樹立五十周年を祝う集
い」出席

▼大船「ゆめ観音フェスティバル」
視察

五日▼第五十回「同宗連」研修会 出
席

六日▼局内会議
▼総務財政審議会

七日▼日本宗教連盟創立六十周年記念
式典出席

八日▼プーケット日本人会大野氏来局

訂正

前号(五二一号)において、
七頁右下の哀悼において、加賀美泰全師
(本会元評議員)について、

八月三日遷化 六十八歳
と掲載致しましたが、

七月三日遷化 六十七歳
の誤りでした。また、七頁二段目訂正の
欄、西脇修師の役職を、

宗門長期進行計画推進対策室長
と掲載いたしました、
宗門長期振興計画推進対策室長
の誤りでした。

謹んで訂正させて頂きますと共に、不
手際により大変ご迷惑をおかけしました
こと、関係各位に心よりお詫び申し上げ
ます。

日本宗教連盟 創立六十周年記念式典

日本宗教連盟は、宗教団体相互の連
絡、宗教文化の興隆、世界平和への貢
献等々を目的とし、昭和二十一年六月
二日に結成され、本会も協賛五団体の
一つである。

平成十八年九月七日(木)、虎ノ門
パストラルに於いて、財団法人日本宗
教連盟創立六十周年記念式典・記念講
演・祝賀会が行われ、各界代表初め総
勢百五十名あまりが参加した。

午後三時に開会、山北宣久日宗連理
事長による主催者挨拶の後、来賓とし
て小坂憲次文部科学大臣、庭野日鏡
WCRP日本委員会理事長、山田義俊
全国教師連盟理事長が祝辞を述べら
れ、功労者への感謝状贈呈が行われた。

その後、日野原重明聖路加国際病院
理事長を講師として「よく生きること
の意義」をテーマに記念講演が行われ
た。

十月で九十五歳を迎える日野原氏も、
若い頃結核の疑いから一度は死を覚悟
したという実体験から、人間は老いて
やがては死ぬという厳粛な事実を把握
した上で、「レセプター(受容する
力)を高め、豊かに生きることの重要
性を説くなど、迫力のある講演に聴衆
は熱心に聞き入っていた。

哀悼

大塚 惠章師(本会元常務理事)

八月二十五日遷化 七十五歳

真言宗豊山派前宗務総長

多紀 頼信師(本会元常務理事)

八月二十六日遷化 八十六歳

天台宗元宗務総長

★今月の表紙について★

ミヤンマー ピンダヤ石窟寺院

洞窟内は石灰質の洞窟で、全長百
五十メートルの鍾乳洞。内部には八
〇九四体の仏像が何世紀にもわたっ
て納められていることで知られてい
る。仏像は十三世紀以来の作品で、
チーク材・アラバスター・大理石な
どで作られ、全ての仏像に漆を塗っ
て近年金箔がはられている。真っ黒
な汗をかき二体の仏像もあり、仏像
の汗を拭いた人は幸せになると言わ
れている。

財団創立50周年記念事業

平成19(2007)年

8月23日(木)

財団創立50周年記念式典挙行(東京)

11月19日(月)・20日(火)

第40回全日本仏教徒会議神奈川大会開催

平成20(2008)年

11月初旬～中旬(予定)

第24回WFB世界仏教徒会議日本大会開催(東京)

平成21(2009)年

2月(予定)

財団創立50周年記念誌発刊



おかげさま。
地域の縁・アジアの縁

<http://www.jbf.ne.jp/>